

## 中部運輸局観光部

平成 30 年 5 月 29 日  
定例記者懇談会発表

## 〈お問い合わせ先〉

国土交通省中部運輸局観光部 金子、渥美

TEL : 052-952-8045

中部国際空港利用促進協議会 福村、和田

TEL : 052-962-8091

**訪日外国人旅行者向け交通系 IC カード  
“Central Japan Travel Card”  
実証実験結果を発表**

中部運輸局では、中部国際空港利用促進協議会との連携事業の一環として、セントレアから入国する訪日外国人旅行者にキャッシュレスかつストレスフリーに昇龍道を周遊していただくため、“manaca”をベースとする訪日外国人旅行者向けの交通系 IC カード “Central Japan Travel Card”を活用した実証実験を実施しました。

本実証実験では、本年 2 月 1 日から 3 月 20 日までの 48 日間で “Central Japan Travel Card” 1,386 枚を販売しました。

今般、カード利用履歴から旅行者個々の利用動向・周遊状況を把握・分析するとともに、アンケート調査結果から利用者の評価を整理し、別紙のとおり実証実験結果の概要を取りまとめましたのでお知らせします。

## 《参考》

本実証実験は、平成 30 年 1 月 29 日の定例記者懇談会にてお知らせしたとおり、訪日外国人旅行者の行く先々での切符購入等の負担を軽減して周遊性を高めるとともに、カードの利用履歴から旅行者の周遊状況や利用動向を詳細に把握して、地域の観光戦略に役立てることを主な目的としています。

<http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/press/pdf/kankou2018012901.pdf>

# 訪日外国人旅行者向け交通系ICカード “Central Japan Travel Card”実証実験結果の概要

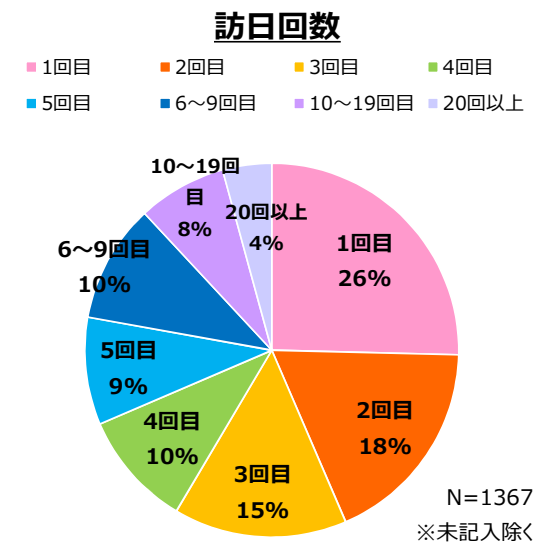
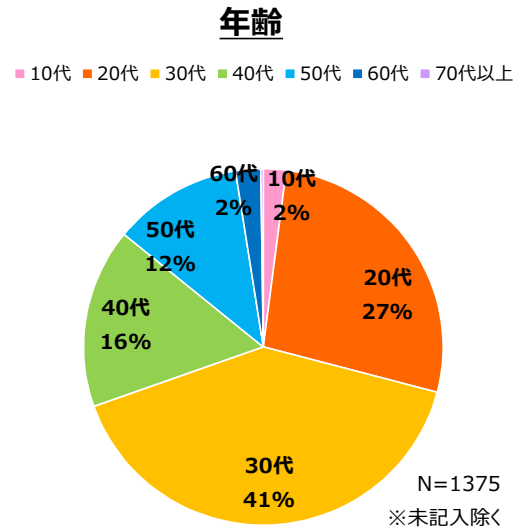
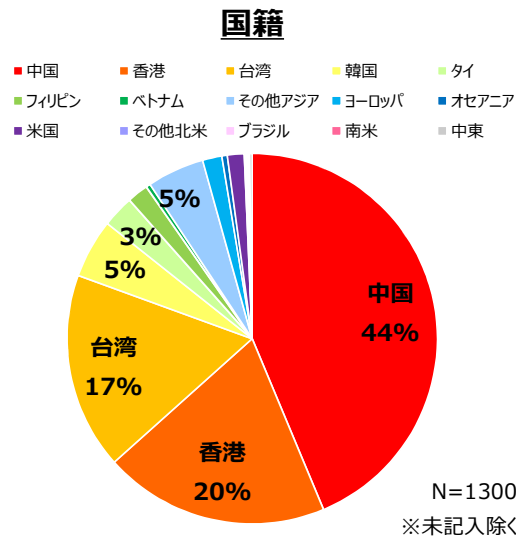
中部運輸局観光部  
平成30年5月29日



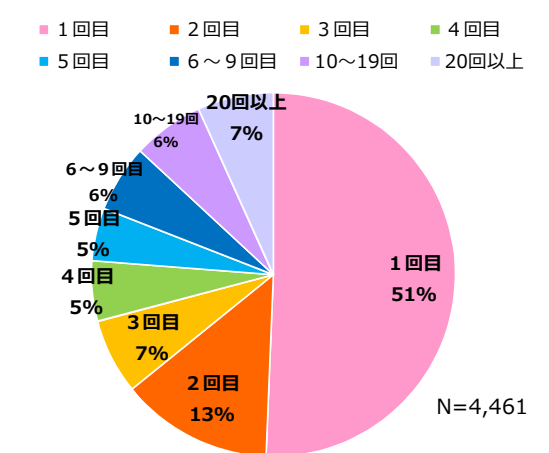
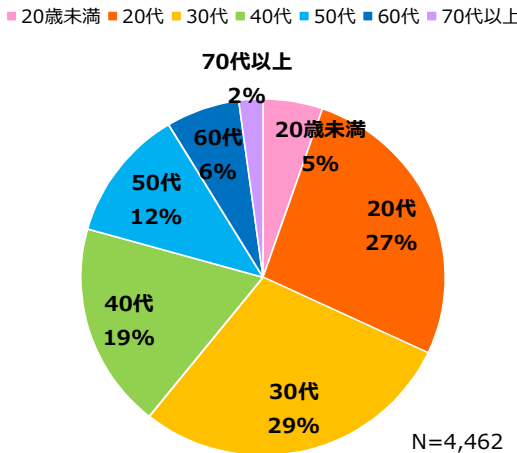
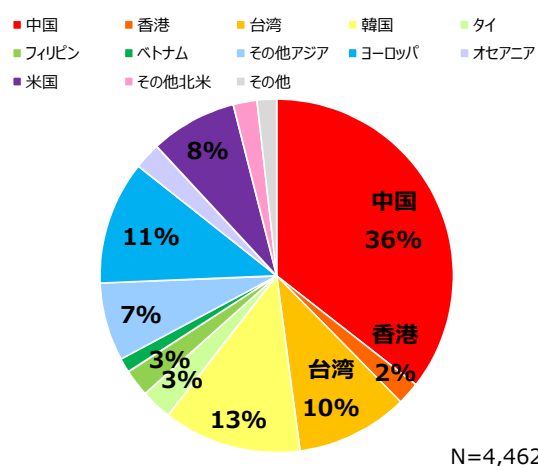
# (1) Central Japan Travel Cardの販売状況

- 実証実験期間中（平成30年2月1日～3月20日の48日間）に“Central Japan Travel Card”**1,386枚を販売**
- 購入者を国籍別に見ると**①中国、②香港、③台湾**の順に多く、この3国で全体の8割超、中部地域を訪れる外国人旅行者（セントレアに限らず）の国籍別比率と比較すると、香港が高く韓国・欧米はやや低い傾向
- 年齢別では**30代が41%**と最も多く、これに20代及び40代を加えると全体の8割超、比較的若い世代が購入する傾向
- 初訪日からリピーターまで**訪日回数に関わらず幅広く購入**、団体旅行の多い初訪日の購入比率は低い傾向

購入者の属性



中部運輸局管内における訪日外国人旅行者の属性

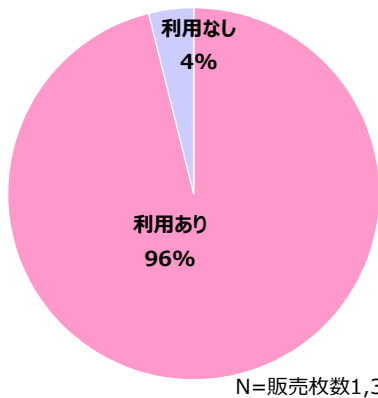


出典：訪日外国人消費動向調査集計表/2017（1-12月期）第3表訪問地（都道府県47区分および地方運輸局等10区分）別回答者属性および旅行内容/観光庁

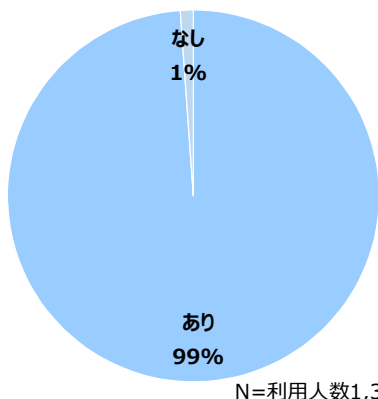
## (2) Central Japan Travel Cardの利用状況①

- 購入者1,386人のうち96%が実際に利用し、1人あたりの利用回数は10.7回、利用金額は3,979円
- 利用者の99%が移動（交通機関利用）に利用している一方、32%は買物にも利用
- 利用者の87%が購入後にチャージをしており、1人あたりのチャージ回数は2.2回、チャージ金額は3,678円
- 1回あたりのチャージ金額は2,000～3,000円が最も多く全体の60%

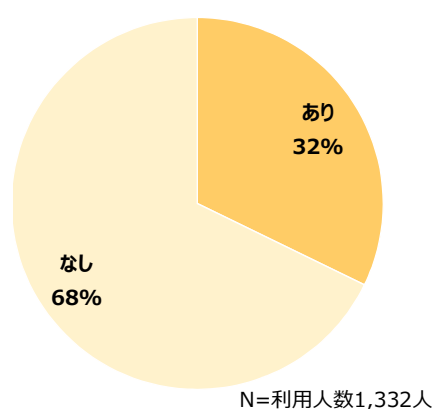
利用率



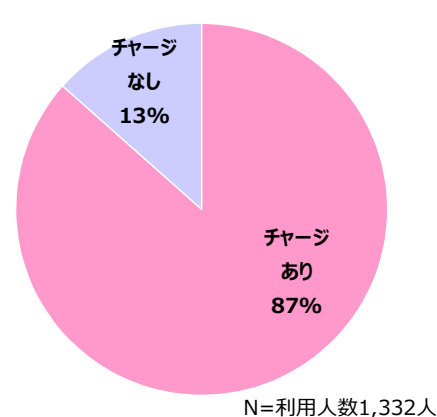
移動の利用率



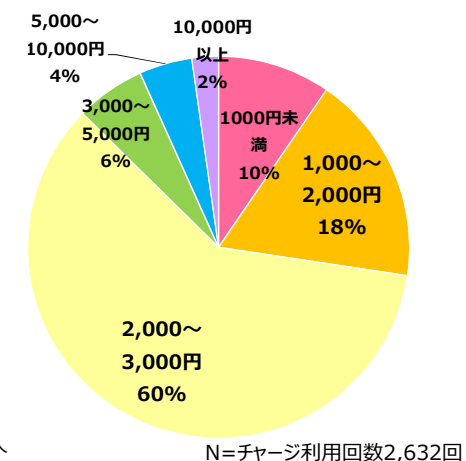
買物の利用率



チャージ率



チャージ金額の割合



1人あたりの利用回数と利用金額

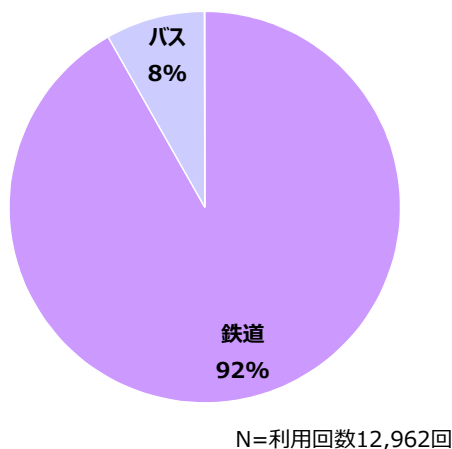
	全体	移動	買物	チャージ
利用回数	10.7回/人	9.8回/人	3.0回/人	2.2回/人
利用金額	3,979円/人	3,488円/人	1,645円/人	3,678円/人

“Central Japan Travel Card”の購入者はチャージしながら  
事前チャージ金額（1,500円）の約2.7倍の金額を交通機関や買物で消費

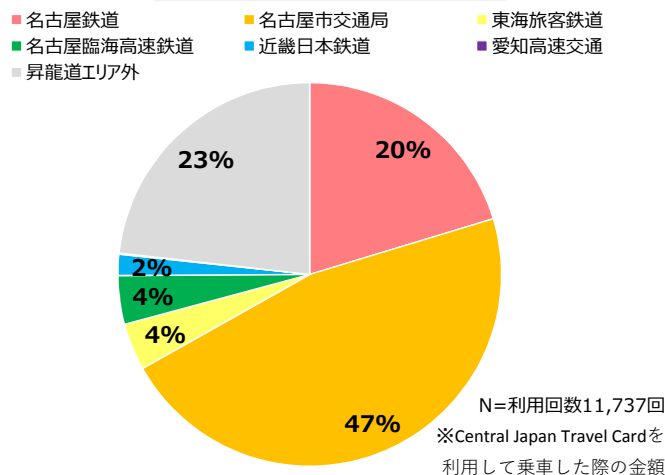
# (2) Central Japan Travel Cardの利用状況②

- 利用回数・利用金額のいずれにおいても鉄道利用が約92%、バス利用が約8%
- 利用回数では名古屋市交通局が47%、名古屋鉄道が20%であったほか、昇龍道エリア外での利用が23%
- 利用金額では名古屋鉄道が41%、名古屋市交通局が29%であったほか、昇龍道エリア外での利用が18%

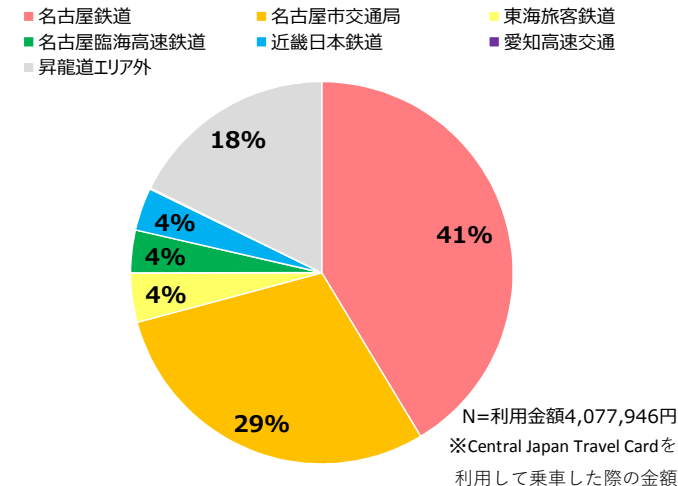
交通機関の利用率



鉄道事業者別の利用状況（利用回数）



鉄道事業者別の利用状況（利用金額）



交通機関別の利用回数と利用金額

鉄道	11,895回	4,199,220円
バス	1,063回	394,501円
タクシー	4回	4,870円

※3/25時点

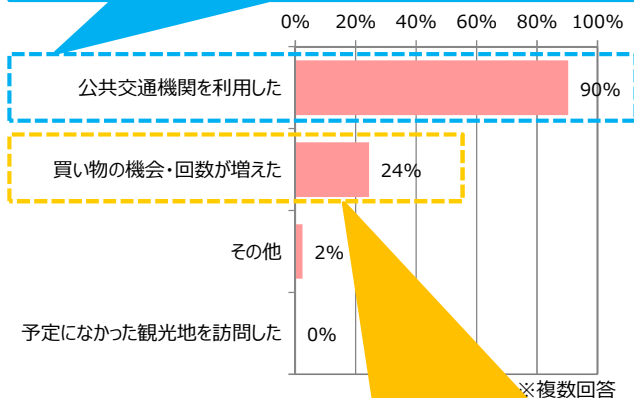
“Central Japan Travel Card”は鉄道利用が圧倒的に多く、名古屋市内を中心に利用されるが、他の交通系ICカードとの相互利用により、昇龍道エリア以外の地域（関西・関東等）でも利用あり

# (2) Central Japan Travel Cardの利用状況③

- “Central Japan Travel Card”を利用した者の約90%が公共交通機関を優先的に利用したと回答
- アンケート調査に基づく利用事例のとおり、旅行者は4日間にわたり鉄道とバスを乗り継いで名古屋駅周辺地区や栄地区を周遊（該者は、カード購入時アンケートにおいて今回の旅行目的地に高山と白川郷を挙げ、その他は旅程の中で計画すると回答）
- 日本滞在中の交通費は、“Central Japan Travel Card”利用者は21,031円と訪日外国人旅行者の消費額15,653円（観光庁2017年調査集計値）を約35%上回り、物品購入費においても同様に19%上回った

## Central Japan Travel Cardの利用による 予定の変化

日本滞在中の交通費  
Central Japan Travel Card利用者：21,031円/人  
訪日外国人旅行者※1：15,653円/人

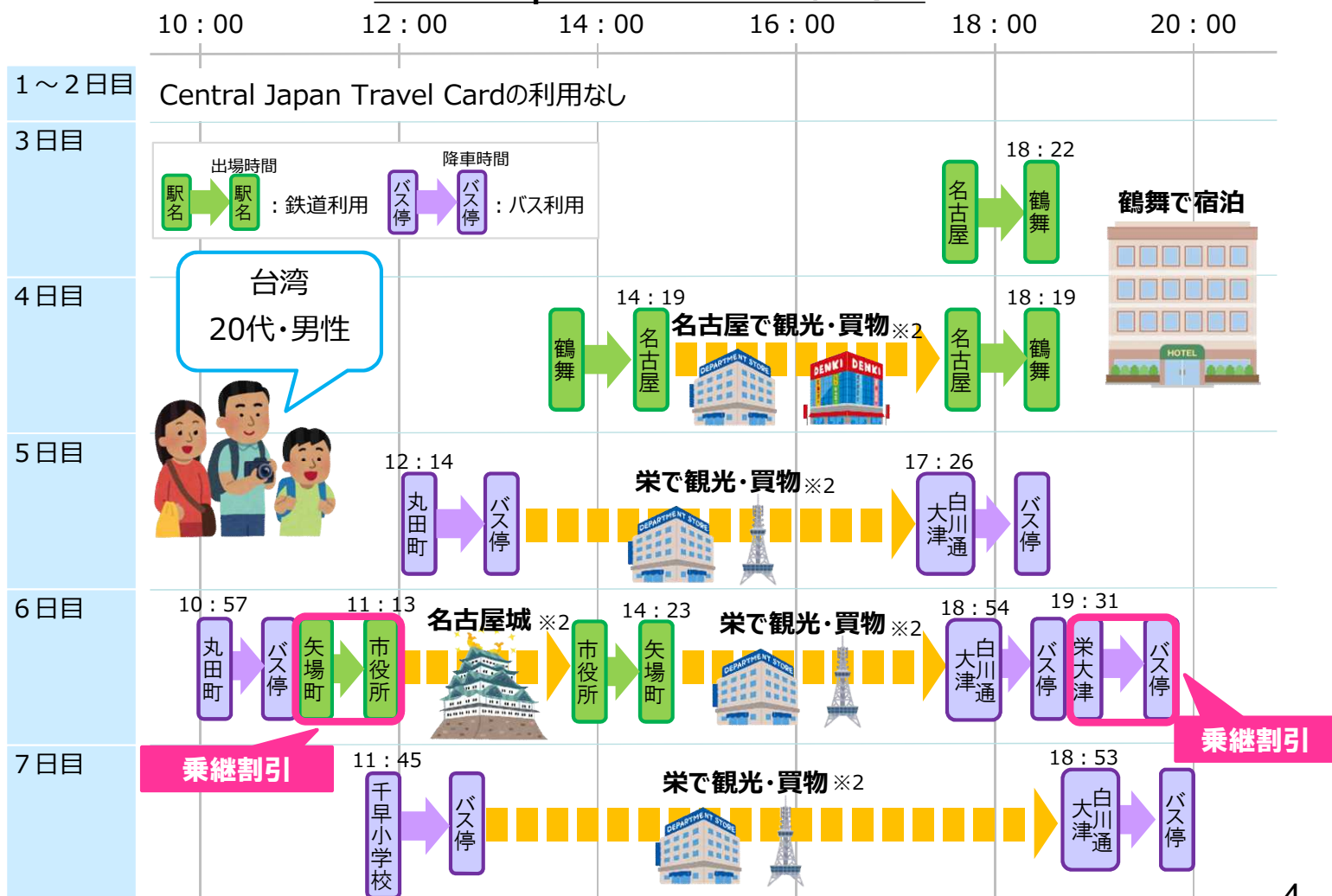


日本滞在中の物品購入費  
Central Japan Travel Card利用者：69,343円/人  
訪日外国人旅行者※1：58,683円/人

※1出典：訪日外国人消費動向調査集計表/2017（1-12月期）  
参考表4 国籍・地域（21区分）別費目別購入率および購入者単価【観光・レジャー目的】/観光庁

“Central Japan Travel Card”が  
公共交通機関利用のきっかけとなり  
公共交通機関の利用促進により  
周遊性の向上が期待できる

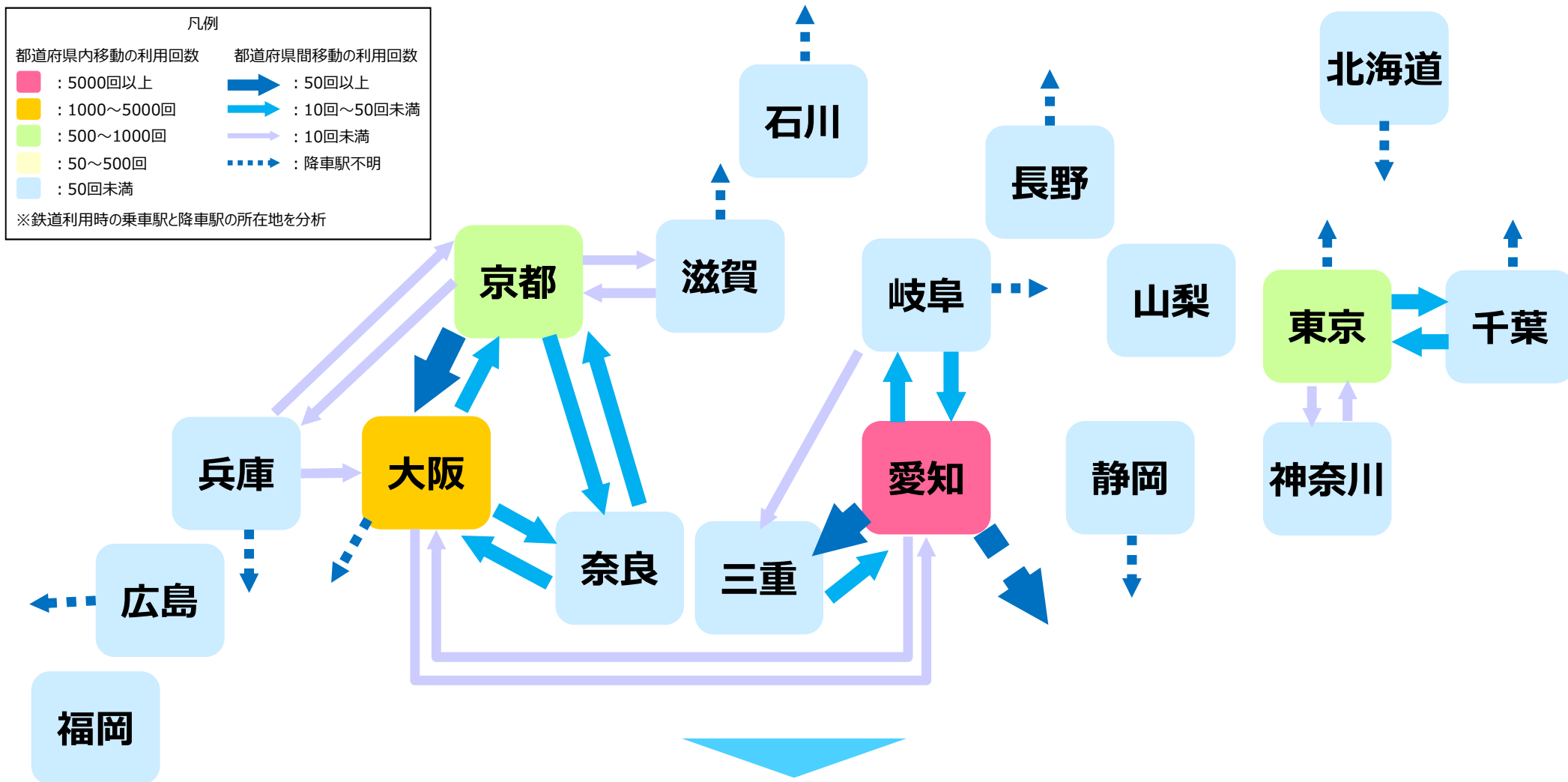
## Central Japan Travel Cardの利用事例



※2：時間、場所を考慮し想定

## (2) Central Japan Travel Cardの利用状況④

- 愛知県内を中心に利用され、愛知県と隣県の往復のほか、大阪、京都、東京で比較的多く利用された
- 愛知県内での利用が主であるが、愛知県から三重県等他県への移動、大阪・京都・奈良間や東京～千葉など主要観光地間の移動、また出国空港への移動の際の利用も確認された

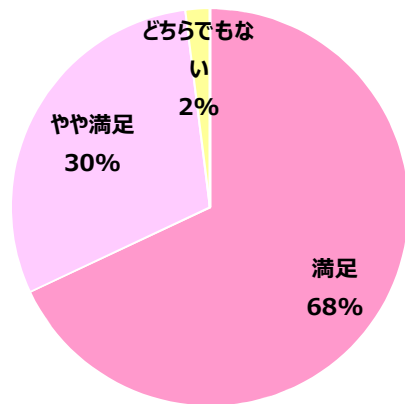


“Central Japan Travel Card”は昇龍道エリアにおける利用可能区間・地域が限定的ではあるものの、愛知県を中心に県内・隣県移動での利用に加え、関西・関東における都市間で多く利用

# (3) Central Japan Travel Cardの利用者の評価

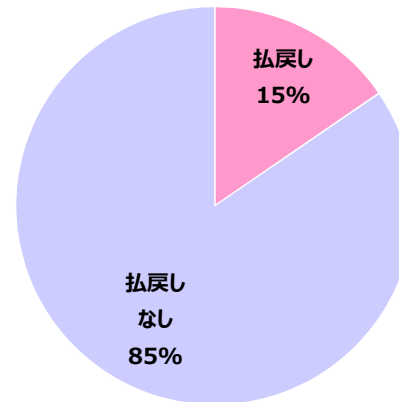
- 利用者の約98%が利用に関して満足又はやや満足と回答
- 「乗車券を購入する手間が省けた」や「路線乗換がスムーズにできた」という移動時の利便性を評価する回答が最も多く、「キャッシュレス」や「日本円硬貨を使う必要がなく便利」という支払いの利便性についても一定の評価
- 一方で、昇龍道ウェルカムカードの特典を評価する回答は少なく、昇龍道ウェルカムカードの告知や機能改善が課題と認識
- 払戻率は15%、払戻ししなかった者（購入者の85%）のうち約96%が次回も利用すると回答（継続利用意向が非常に高い）

満足度



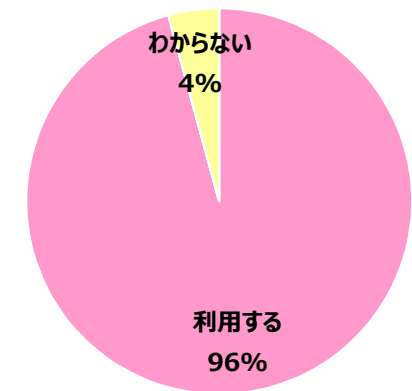
N=50  
※未記入除く

払戻しの状況



N=販売枚数1,386枚

継続利用の意向

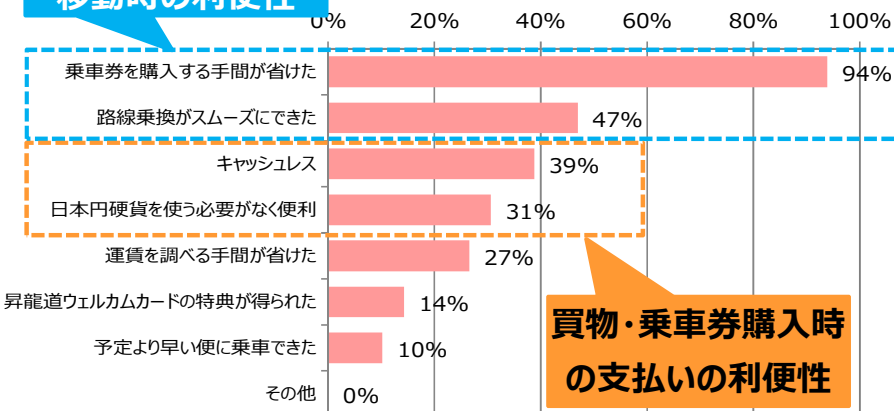


N=47  
※未記入, 払戻し者を除く

※利用者アンケートの回答者のうち、払戻ししなかった方の回答を集計

## 利用してよかったこと

### 移動時の利便性



### 買物・乗車券購入時の支払いの利便性

N=49 ※複数回答

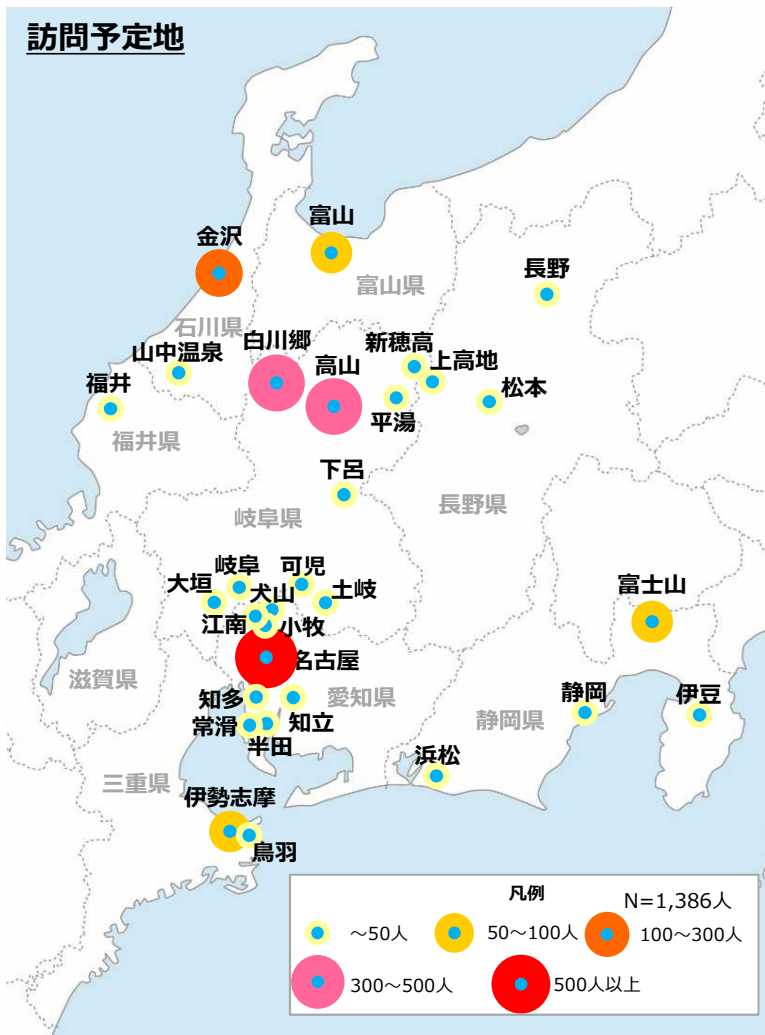
多数が移動時の利便性や支払いの利便性を高く評価し、次回訪日時における継続利用の意向も高いが、カードの付加価値をさらに高める検討も必要



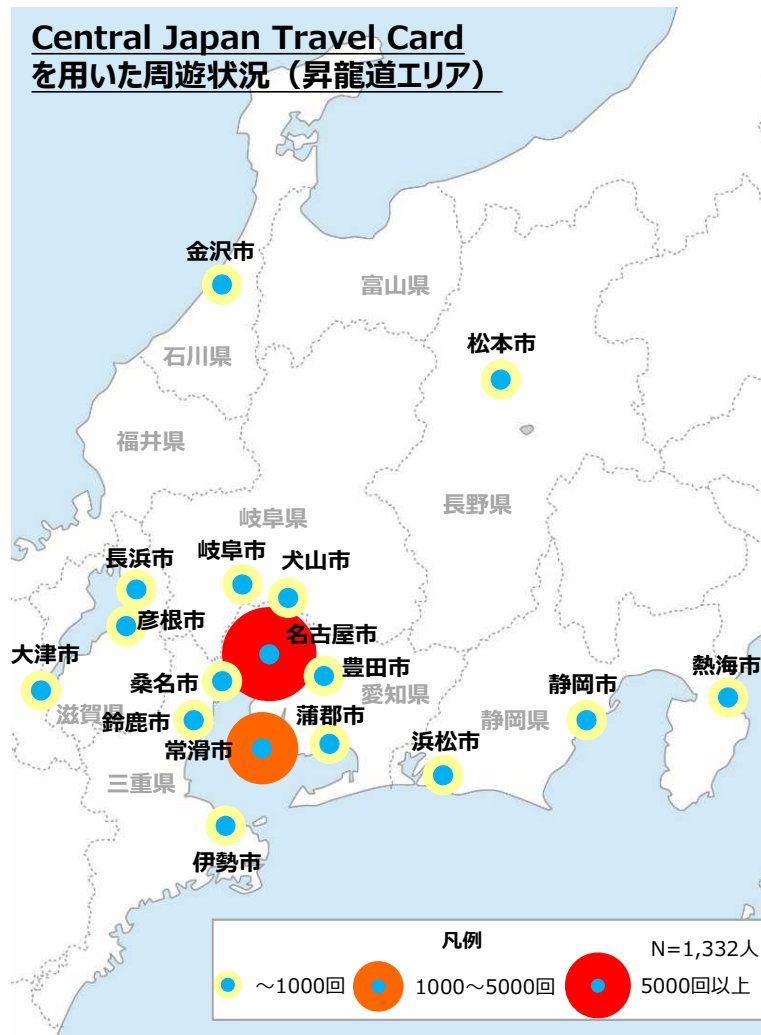
# (4) 昇龍道エリアにおける周遊状況

- セントレアから入国した訪日外国人旅行者の昇龍道エリアにおける訪問予定地は、名古屋、高山、白川郷、金沢が多く、伊勢志摩、富士山、富山も比較的多い
- “Central Japan Travel Card”を用いた昇龍道エリアにおける周遊状況は、名古屋市周辺での利用が圧倒的に多いが、犬山市や岐阜市、伊勢市など近接地域に加え、金沢市や松本市、熱海市、大津市など昇龍道エリア広域でも利用

訪問予定地



Central Japan Travel Card  
を用いた周遊状況 (昇龍道エリア)



“Central Japan Travel Card”を用いた周遊は、名古屋市を中心に愛知県に集中するが、使い方次第で昇龍道広域の周遊も期待できる

※人数は延人数、回数は延回数  
 ※予定訪問地は購入時に回答いただいた旅行行程（訪問地）に基づき集計  
 ※周遊状況は利用駅の所在地ごとの利用回数を集計

# (5) Central Japan Travel Cardの実証実験のまとめ

## “Central Japan Travel Card”実証実験の結果

<b>販売実績</b> (サンプル数)	○販売枚数1,386枚 ○中国、香港、台湾の比較的若い世代が多く購入 ○訪日回数に関わらず幅広く購入する傾向（初訪日に多い団体旅行者を除く）
<b>利用状況</b>	○購入者1人あたりの利用回数は10回を超え、事前チャージ額の2.7倍となる約4,000円を消費 ○利用者の87%が購入後にチャージし、1人あたりのチャージ回数は2.2回、チャージ金額は3,678円（1回あたりのチャージ金額は2,000円～3,000円が半数以上） ○鉄道利用が圧倒的に多いが、買物にも利用 ○“Central Japan Travel Card”購入が公共交通機関利用のきっかけとなり、周遊性が向上（交通費、物品購入費共に2017年訪日外国人消費動向調査集計値を上回る結果） ○他の交通系ICカードとの相互利用により昇龍道を超えて大阪、京都、東京など広域で利用
<b>利用者の評価</b>	○“Central Japan Travel Card”利用者の大半が満足と回答 ○特に「キャッシュレス&ストレスフリー」を高く評価 ○払戻率は15%であったが、払戻ししなかった者の大半が次回訪日時における継続利用を希望
<b>周遊状況</b>	○セントレアから入国した訪日外国人旅行者の訪問予定地は名古屋、高山、白川郷、金沢が多く、伊勢志摩、富士山、富山も比較的多い ○昇龍道エリア内の周遊は、カード利用可能路線・地域に限られるなどにより名古屋市を中心に愛知県に集中するが、使い方次第で昇龍道広域周遊での利用も期待できる